

4年■組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者：●●●●

1 取り上げる人権課題「犯罪被害者等」

2 取り上げた人権課題と背景と現状

誰でも幸福に生きる権利は憲法で保障されている。しかし、ある日突然、犯罪によって幸福に生きる権利を奪われてしまう。それは、犯罪に遭った被害者だけでなく、その家族にも及ぶものである。さらに、マスメディアによる過剰な報道や周囲の好奇心な目、誤解に基づく中傷等により、被害者や周りの人々の人権が脅かされることがある。

子どもたちには、犯罪に遭った人を苦しめようという意識はないが、自身の興味本位や相手を思いやるつもりで、どんなことでも知りたがってしまう姿や、周りの不確かな情報に同調してしまう姿が見られる。今後、相手の置かれた状況を正しく捉えたり、相手の気持ちを押し量り、相手のこと考えたりして行動できるようにしたい。

3 児童の実態

子どもたちは、犯罪に関わる情報について、日々テレビ等のニュースで知っている。しかし、実際に犯罪に遭ったり、犯罪に遭った人の気持ちを考えたりする経験はほとんどなく、被害に遭った人やその人を取り巻く人々の思いや状況を深く考えたことがない。

普段の学校生活の中では、仲間が困っている場面を見かけたら、進んで声をかけたり、助けようとしたりする姿が多くみられるため、仲間のことを大切に思おうとする意識は高い。一方で、仲間がケガをした場面に遭うと、過剰に心配したり、事実関係を確認しないままに周りの仲間に話をしたりする姿も見られる。

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

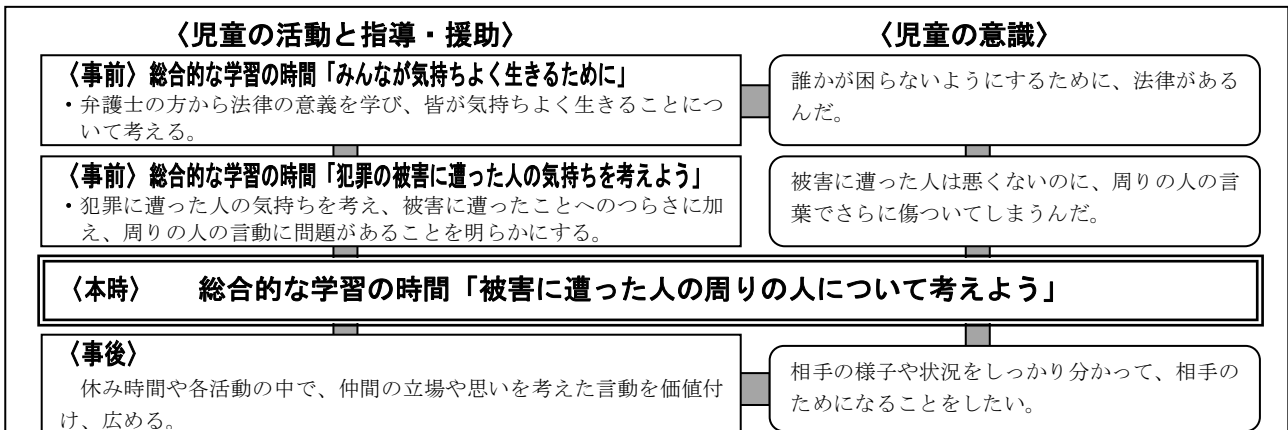
〈分析の観点〉	概ね思う
相手が困っていたら、助けたい。	100%
うわさ話をしたことがある。	約 70%
うわさ話や悪口を聞いた時に、注意したことがある。	約 20%

この結果より、本学級の児童は、困っている人を助けたいと思う一方で、うわさ話に加わった経験を多くもっている。その要因として、仲間の立場や状況を十分に把握しないままに、自分自身の気持ちを優先させたり、間違っていると分かっているにもかかわらず周りの考えに流されたりしているのだと考えた。

4 指導改善の手立て

- 被害者支援センターの方から犯罪被害に遭った方のためにできることについて聞き、「誰にでも自分中心な考え、流される思いがあるが、みんなはどうか。」と問いかけることで、自分自身を見つめ直すことができるようにする。
- 被害者支援センターの方の話から問題となる行為が犯罪を受けた人だけでなく、その家族も大きく傷つけてしまうことを確かにし、行動する意欲を高めることができるようにする。

5 事前・本時・事後の指導構想



6 本時の目標

被害に遭った人やその周りの人の問題を考え合うことを通して、自分の興味本位の行動や周りの考えに追従してしまう行為が被害者をさらに傷つけてしまうことに気付き、相手の立場に立って考えたり、周りに流されず行動しようとしたりする態度を養うことができる。

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助			
<p>つかむ 2分</p> <p>見 い だ す 15分</p>	<p>1 資料を確認する。</p> <p>ある日、Aさんの家に、どろぼうが入った。家は荒らされ、大切な物も盗まれ、Aさんはとてもショックを受けた。家の前には、パトカーが停まり、現場検証のため、いろいろなことを聞かれた。近所の人もその様子を見ているようだった。</p> <p>次の日、学校へ行くと、Aさんが聞かれたくないと思っているにもかかわらず、仲間がAさんに何があったのか、何を盗まれたのかなどを聞いてきた。仲間には近所の人たちから、うわさ話として伝わったようだった。周りの仲間がひそひそと話していると、自分のことを話しているのではないかと感じるようになった。</p> <p>結果、Aさんは、学校に行けなくなった。</p> <p>・Aさんは、周りの人の目が気になって、とてもつらい気持ちになって、学校に行けなくなったんだ。自分にできることって。</p> <p>2 課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>被害を受けたAさんのためにできることを考えよう</p> </div> <p>3 周りの人の何が問題だったのかを考え合う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>〈話を聞き、声をかける〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が求めている。 ・相談にのってあげたい。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>〈うわさ話をする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人には、関係ない。 ・触れられたくないだろう。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p>〈周りに注意できない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も周りから責められるかもしれない。 ・周りに流される。 </td> </tr> </table> <p>自分が知りたい気持ちをおさえない・周りの考えに流されることが相手を傷つける。</p> <p style="text-align: center;">【確かにする場】</p> <p>4 明らかになった問題を解決するために、周りの人がどうすべきだったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは事件に遭って傷ついていて、事件のことを聞かれたくないと思っているだろうから、そっとしておくべきだ。 ・Aさんのつらい気持ちが少しでも楽になるように、優しく声をかければいいのか。 ・うわさ話を絶対に許してはいけない。周りの人に流されてしまうのではなく、注意して止めるべきだ。 <p>5 考えたことを自分事としてとらえ、見つけ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんのつらさは、放っておけない。けれど、Aさんにどんな言葉をかけてよいか分からず、何もできないかもしれない。そんな自分が情けない。 ・いざとなった時、自分は周りに流されてうわさ話をしてしまうかもしれない。それは許されない。そんな自分は嫌だ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>被害に遭った人を支えるために、自分中心の心や流されてしまう心乗り越える。</p> </div> <p style="text-align: center;">【学習成立を見届ける場】</p>	<p>〈話を聞き、声をかける〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が求めている。 ・相談にのってあげたい。 	<p>〈うわさ話をする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人には、関係ない。 ・触れられたくないだろう。 	<p>〈周りに注意できない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も周りから責められるかもしれない。 ・周りに流される。 	<p>◇被害を受けた人の立場を考えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このようなことは、実際にあるのか」と被害者支援センターの方に聞くことで、周りの対応の問題が実際にあることから課題をもつことができるようにする。 <p>◇周りの自己中心的な思いや追従する思いが引き起こす問題であるに気付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で、考え合えるよう、小集団を作る。 ・興味本位で聞くこと、うわさ話をするだけでなく、傍観者にも着目させることで、見て見ぬふりをすることも相手を傷つけることに気付くことができるようにする。 <p>◇明らかになった問題が自分にもあることに気付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰にでも自分中心な考え、流される思いがあるが、今自分の心で考えていることは、あるかな。」と問いかけることで、自分自身を見つめ直すことができるようにする。
<p>〈話を聞き、声をかける〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が求めている。 ・相談にのってあげたい。 	<p>〈うわさ話をする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人には、関係ない。 ・触れられたくないだろう。 	<p>〈周りに注意できない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も周りから責められるかもしれない。 ・周りに流される。 			
<p>確 か に す る 15分</p> <p>で き る 13分</p>	<p>6 第2資料(犯罪被害に遭った方の気持ち)から、自分の弱さ乗り越え、行動することを考える。</p> <p>私は、ある犯罪に遭い、とてもつらい思いをした。事件のことを知らない人に何があったかを話すことはできなかった。家の中で、誰とも話せず、事件のことや周りからの目の怖さにたえるしかなかった。でも、支援センターの方が、眠れているのか、食事はできているのか、心無い言葉に傷ついていないか、気持ちを抱え込んで一人で頑張っていないかなど、親身になって話を聞いてくれたり、「おはよう」など、普通に関わったりしてくれたことが大きな支えでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人のちょっとした行動がたくさんの人を傷つけることにつながる事が分かった。自分の弱い心乗り越え、相手の人のことをよく考えて行動できる人になりたい。 	<p>◇被害者を支えた方の行動から自分を乗り越え、自ら行動しようと考えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害者支援センターの方の話から被害者の思いを考えた行動について聞き、自分の課題を乗り越え、行動しようとする意欲を高める。 <p style="text-align: center;">【評価規準】</p> <p>◇相手の立場に立って考えたり、周りに流されず行動しようとしたりしている。(発言内容・記述内容)</p>			

解 説

1. 「犯罪被害者等の人権」を取り上げるにあたって

犯罪事件や交通事故等によって、ある日突然幸福に生きる権利を奪われてしまうことがあります。被害者本人はもちろん、その家族や遺族等の平穏な生活を侵害されることとなります。犯罪被害や、その後遺症による精神的負担や身体の不調、医療費の負担や失業・転職による経済的困窮、さらに捜査や裁判過程における精神的・時間的負担等に苦しんでいます。そのうえ、過剰な取材、報道、興味本位なうわさ、心無い中傷等による精神的苦痛にさらされることもあります。犯罪被害者等に対する理解を深め、無責任なうわさや興味本位の報道が生じないように、人権に配慮していくことが大切です。

2. 本実践の指導上のポイント

どろぼう被害にあったAさんに精神的苦痛を与えてしまった周りの人の興味本位の行動や、それに追従してしまう行為について考えることで、自分の中にある心の弱さに目を向けることができます。

自分の心を見つめなおし、自分の中にもうわさ話に流される気持ちがあることを認識したうえで、被害者支援センターの方の話聞くことで、自分の弱い心を乗り越え、被害者を支えていこうという意欲につながっていくと思います。